

黒毛和種去勢牛について出荷月齢を3ヶ月早期化し 約27ヶ月齢にしても良好な枝肉成績を得られる

これまでの和牛生産は、市場評価の高い枝肉を生産するため長期間の肥育を行い、生後30ヶ月齢前後で出荷を行っています。出荷月齢を早期化し肥育期間を短縮することは経営の安定化に有効ですが、出荷月齢の早期化によって肉質に対する市場評価の低下が懸念されます。そこで、佐賀県畜産試験場では出荷月齢を通常約30ヶ月から3ヶ月早期化しても、きめ・しまり等の問題が発生しない「佐賀牛」の肉質・肉量を維持する飼養管理法を確立しましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 一代祖は佐賀県の認定種雄牛「勝二」号に統一し、7～8ヶ月齢の黒毛和種去勢牛を用い、27ヶ月齢で出荷する区（期間短縮区 n=6）、約6ヶ月齢から肥育を開始する区（早期肥育開始区 n=5）、30ヶ月齢で出荷する区（慣行区 n=8）の3試験区を設定しました。飼料の給与量は、27ヶ月齢で出荷する場合、約8～9ヶ月齢以降の濃厚飼料の増給量を1.5kg/月/頭としました。
2. 27ヶ月齢で出荷した期間短縮区、早期肥育開始区の生体重量、枝肉重量および日増体量は、慣行区と比較して有意差がなく、早期に肥育を開始することで、きめ・しまりなどの肉質を落とさずに胸最長筋面積や枝肉重量が大きくなる傾向があります。
3. 27ヶ月齢で出荷した期間短縮区、早期肥育開始区のBMS No.は、慣行区と有意差は認められず、県平均7.1（H28年度 公益社団法人日本食肉格付協会調べ）を上回る数値で、「きめ・しまり」による格落ちはありません。



図1 試験を行った肥育専用牛舎



図2 飼養中の肥育牛



図3 枝肉写真（BMSNo.12）

☆ 活用面での留意点

1. 8～12ヶ月齢時に粗飼料の摂取量が少ないと、14～15ヶ月齢以降に濃厚飼料の摂取量が少なくなる可能性があるため、濃厚飼料と粗飼料の摂取量を確認しながら給与してください。
2. ルーメン内の環境の安定のために、濃厚飼料の増給は細かく行って下さい。
3. 詳しくは、佐賀県畜産試験場・大家畜部・大家畜研究担当（TEL 0954-45-2030）にお問い合わせください。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男）